

令和6年度 学校評価表

学校経営目標 子供がわくわく 教職員が働きがいのある学校 学校教育目標 笑顔生み出す児童の育成 めざす子供像 挑戦する子供・体験をもとに気づく子供・対話を通じて考える子供	目標に対する割合の評価基準 4・・・101%～ 3・・・80～100% 2・・・60～79% 1・・・60%未満
---	--

	目標		実践		評価		今回の達成割合	目標に対する割合	評価	成果と課題の分析	改善の方向性
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策	評価項目（評価方法）	目標値						
					中間	最終					
確かな学力（知）	○確かな学力を身につけ、主体的に学び合う児童の育成	【1】 ・単元を通したリーダー学習と協調学習を通して、主体的に学び、対話を通じて自分の考えを深めることができる。	・協調学習を取り入れた授業を実施する。 ・単元計画表を児童と共有したリーダー学習と自己選択のある学習を実施する。	・全学級、年間3回以上実施する。 ・国語科、算数科、理科、社会科の学期末テストの結果が標準得点以上の児童の割合	60%	100%	89%	148%	4	○年度初めの校内研修の中に協調学習の授業参観を取り入れたことで、協調学習のよさやスタイルを全員が共有していたので取り組みやすさにつながった。 ○全学級で単元計画表を用いたリーダー学習の取組をすることで、児童が自分で考えて主体的に学ぶ力が付いてきている。また、リーダー学習参観Weekや振り返りを校内研修に位置づけることで、リーダー学習で目指す姿が児童も教職員も明確になった。	・引き続き、研修を通して、協調学習の良さや改善点を協議し、共有していくことで、よりよい授業づくりをしていく。 ・単元計画表を見直して改善する研修を行ったり、リーダー学習・協調学習・個別で進める学習を1つの単元の中に取り入れ、多様な学びを可能にしたりする。また、引き続き各学年のリーダー学習を見る機会を設けていく。
豊かな心（徳）	○自他を尊重し、豊かな感性と道徳性を備えた児童の育成	【2】 ・多様な他者との交流・体験活動を通して、気づきをもち、考え、次の活動へつなげることができる。	・体験活動を行う中で、「特別の教科 道徳」で考えたことと普段の生活を関連させながら、自分で気づき考え、行動できるようにしていく。	・児童が行う生活・学習アンケートにおいて、多様な体験活動を通して、気づき、考えたことを生かしていると回答した児童の割合	70%	90%	88%	125%	4	○授業、行事、体験活動等、全てにおいて「気づき、考え、行動する」という学びのサイクルを意識した指導を行っていることで、児童も意識することができている。 ○道徳科で考える道徳的価値に迫るために、自分たちの生活と関連させながら考えさせている。また、学校生活で課題が出た時には、道徳科で学んだことを想起させて行動につなげている。	・引き続き、どの場面でも「気づき、考え、行動する」という学びのサイクルを意識した指導を行っていく。 ・児童会が行っている生活目標の設定や反省も道徳科につながるよう質を上げていく。
健やかな体（体）	○基本的な生活習慣や、健康でたくましい体力・気力・耐力を備えた児童の育成	【3】 ・体力づくりを通して、憧れと挑戦、自分への期待をもつことができる。 ・食育を通して、自ら食べ力を育てることができる。 ・三点固定の取組を通して、自らよりよい生活習慣をつくることできる。	・1学期は走に関する取組を全校や学級または体力朝会において継続的に行う。2学期以降は、マラソン大会や陸上記録会に加え、走に関する取組みや掲示を行い、走ることに對しての意欲を持ち、記録を伸ばすことができるような取組を行う。 ・栄養管理と並行して児童の食べられる量を見取った給食を提供し、好き嫌いをなく食べられるよう声掛けをする。地産地消や行事食にかかわる献立を作成し、児童に実際に食べながら学習できる機会を作る。 ・児童がよりよい生活に気づき、自らの生活に生かしていくために、家庭と連携しながら、生活を記録する取組や、「3こて週間」の取組を行う。	・新体カテストにおいて、50m走のタイムが昨年度の記録を超える割合。11月は6月の記録を超える割合。 ・児童アンケート「健康にすごすために、給食でいろいろな食べ物を残さずに食べています」肯定的評価の割合 ・地産地消や行事食にかかわる給食を月1回以上提供する。 ・児童アンケートにおいて、「3点固定」ができている児童の割合	70%	80%	84.6%	121%	4	○運動会や新体カテストに向けてこの目標を周知し、各学級の実態に応じて授業やその他の場面で走に関する運動を取り入れることで目標を上回ることができた。 ○児童は給食ではできるだけ好き嫌いをしないように頑張っており、残菜はあまりない。2学期は給食時間の過ごし方を見直し、当番活動を早めにして13時まで集中して食べきる取組を全校で行っている。行事食や地産地消にかかわる献立提供が4・5月はできなかった。6月以降は月1回以上は提供し、掲示や口頭などでお知らせしている。 ○1学期は、1週間の生活を記録し自分の生活を見つめる取組を行った。子供達の気づきや課題を家庭の方が一緒に考え、より良い生活にするよう働きかけていただいた。前期の児童アンケートの結果、「3点固定」で規則正しい生活を心がけている児童は、85.4%。	・体力朝会で走に関する運動や遊びを紹介し、各学級の体育科の授業で取り入れ、継続的に走力をつけることができるようにする。また、2学期にあるマラソン大会に向け、業間運動でマラソンタイムを設け、体力向上を図る。 ・給食時間の過ごし方の取組を引き続き進めるとともに、成長と健康にかかわる食事の大切さについて、家庭科や学級活動などの教科指導でも取り組んでいく。苦手と予想される食材はできるだけ食べ切れる量を提供し、「少しなら食べられる」経験も積み重ねていく。 ・2、3学期は「3こて週間」を実施する。規則正しい生活をするために、1週間、子供達が自分で決めた時間を守る取組を行う。就寝、起床、家庭学習を始める時刻を決めることを中心に、規則正しいリズムの生活ができるように家庭と連携する。
信頼される学校	○教職員が協働し、地域・保護者と連携し、信頼され開かれた学校づくりの推進	【4】 ・地域・保護者に授業などの教育活動を開き、対話を通して協働関係を構築する。 ・働き方改革（業務改善）児童と向き合う時間の確保により、自分なりのやりがいをもつ。	・保護者・地域の方においていただく機会を活用して、次のことに取り組む。 ①学校の教育活動について理解を深めていただけるよう、協調学習やリーダー学習、総合的な学習の時間をはじめ、様々な教科や学習内容を公開する。 ②参加者が児童と一緒に授業に参加できる場を設定し、双方向の学習となるよう内容の工夫を図る。 ③学級懇談等で授業をもとに対話を行い、協働的な体制を構築する。 ・校内委員会を計画的に実施し、部会や担当を中心として組織的に取り組む校内体制の充実を図ることで働き方改革を推進する。	・協調学習やリーダー学習等を取り入れたり、児童と参加者が双方向に関わったりするような学習に視点をあてた授業を各学年2回以上実施する。 ・「学校行事や授業参観を通して子供たちの学びの様子がよく分かる。」という保護者アンケートの項目での肯定的評価の割合 ・時間外勤務が月45時間を超えない教職員の割合 ・子どもと向き合う時間が確保されていると感じる教職員の割合 ・日々の業務の中で充実感を得られている教職員の割合	70%	90%	100%	100%	4	○保護者や地域の方においていただく機会を利用して、学校の主な取組に視点を当てた授業を参観したり、授業を介して対話をしたりする場を設定した。それにより、学校の取組に理解を深めていただき、協働的な関係の構築に努めることができた。保護者アンケートにおいても肯定的な評価をいただいた。 ○見通しを持って業務に取り組むこと、優先順位をつけて効率よく業務に取り組むことなどの習慣化が図られるようになってきた。また、教職員に対する業務改善アンケートの項目に対する肯定的な割合は高い。校内委員会、部会や各担当を中心に組織的に取り組むことで効率的に業務を進め、子どもと向き合う時間の確保とともに充実感も得られるようになってきた。	・参加者と児童が双方向でやりとりできる学習の場を設定したり、学習発表会の機会を活用したりしながら協働的な体制の構築に向けた取組の充実を図る。 ・業務改善が図られるよう、校内委員会、部会や各担当を中心に見通しを持って計画的に業務を行うようになってきた。今後も機会を設定して業務の進捗状況を振り返り、改善を図っていく。